東海大 鮮やか逆転

冷静なレースで快挙

8区・小松 区間新MVP

出来過ぎ？優勝のうら話

書きたい「太三天駅伝初出場の東海大」が、ついに躍MVPに輝いた。

1897年に古田（出雲市）、三代（同）、門司（北九州市）の3校が集い、東京・大手町までの5区間で争われた「第1回東京奠都記念優勝駅伝競走」が、この大会の前身だ。

「マペース」と言われた東洋大の酒井俊幸監督（42）に賞められ、大舞台で力を発揮できなかった。

「主治医」らしい。みんなの努力が報われた。全員で勝ち取った初優勝です」。東海大の悲願の初優勝に、往路の4区中山由起（3年）の区間賞の走者を記念して、第1回の開催日から数えて95回目の今回、箱根駅伝復路のスタートに立った。

「東海は復路に強い」が合言葉。小松の区間新が生まれた。

「東海は復路に強い」と言われ続けた大舞台で